

その後、白神農畜産物の有利販売に向け、管理技術や品質向上によるブランド化への取り組みのために努力を惜しまず、多大な功績をあげられた生産者6名を、優良生産者として表彰しました。

また市場関係者から情勢報告が行われ、震災後の流通体制の変化や、今後の市場動向について説明しまし



△生産者の力を合わせ、困難に立ち向かう必要性を話す福司会長

た。平成23年度の販売実績見込みは、米穀類では米集荷数量が計画に達しないものの、震災により比較的高値



△これまでの功績が認められ、表賞を受ける優良生産者

で取引が行われたほか、大豆なども実績を伸ばしており、見込額は計画対比6・2%増の36億3145万3千円。青果物では、天候不順による定植の遅れや生育不良が各作物で見られ、特に主力作物のねぎは、出荷最盛期が他産地と重なり、販売単価が大きく下落。それらの影響もあり、青果物全体の見込額は計画対比18・5%減の12億6773万4千円。畜産物では、放射能に汚染された飼料が県内で発見され、それに

伴う風評被害が販売単価にも影響した結果、計画対比10・4%減の1億7981万9千円を、それぞれ見込んでいると報告しました。

平成24年度計画では、米穀類は本年度より稼働するカントリーエレーターの、米3,000t、大豆600tの処理能力を活用して、有利販売に繋げていくことなどで、37億3892万円を計画。青果

物は、行政の補助を追い風に、新規作付面積の拡大や、新たな栽培体系による販売の多様化などを推し進めることで、14億9482万円を計画。畜産物は、あきた白神和牛や比内地鶏のPRを継続して行い、販路拡大に努めることで、1億9414万3千円を計画し、総額で54億2788万3千円の販売計画が報告されました。

また達成に向けて、「日本の食を守るため、行政と一体となって農畜産物の生産振興を図り、期待と信頼に応える産地づくりに努めよう。」「他産地に勝る高品質な農畜産物の出荷と、天候に左右されない生産技術の

確立により有利販売を勝ち取る。」「栽培基準の順守と生産履歴記帳により、消費者が求める安全安心な産地作りに努めよう。」「生産者の力を集結し、平成24年度農畜産物販売高54億2788万3千円を確実に達成しよう」の4項目からなる大会宣言を、満場一致で採択しました。



△計画達成に向けた大会宣言を読み上げる、大塚公隆さん

次ページからは、今年度優良生産者に選ばれました、6組の生産者を紹介いたします。